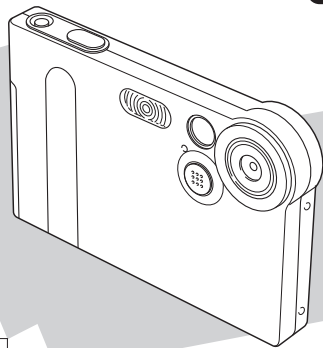
EXILIM

Z

液晶デジタルカメラ

EX-S1/EX-M1

取扱説明書（保証書付き）

はじめに
早分かりガイド
準備する
撮影する（基本編）
撮影する（応用編）
再生する
消去する
ファイルの管理について
その他の設定について
メモリーカードを使用する
パソコンでファイルを活用する
音楽を楽しむ
付録

ごあいさつ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ず「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
また、本書はお読みになった後も、大切に保管してください。

EX-M1

この取扱説明書ではEX-M1のイラストを記載しています。EX-S1とEX-M1の相違点は各章をご覧ください。

CASIO

J

はじめに

付属品の確認

箱を開けたら、まず以下の付属品が全部そろっているかどうかをご確認ください。もし、これらの付属品が全部そろっていなかった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

デジタルカメラ本体

EX-M1

リチウムイオン充電池（NP-20）

USBクレードル

専用ACアダプター

ストラップ

CD-ROM

専用USBケーブル

ダミーカード

※出荷時には、デジタルカメラ本体に装着されています。

端子カバー

※出荷時には、デジタルカメラ本体に装着されています。

液晶リモコン

※EX-M1のみ付属

ステレオヘッドホン

※EX-M1のみ付属

取扱説明書

取扱説明書（保証書付き）

リチウムイオン充電池取扱説明書

目次

消去する　49

ファイルの管理について　51

その他の設定について　58

メモリーカードを使用する　61

パソコンでファイルを活用する　65

音楽を楽しむ（EX-M1のみ）　77

付録　84

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 万一、Photo Loader、Photohands使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

■著作権について

個人で楽しむ場合などのほかは、画像／動画フォーマットファイル、音声／音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配付したりすることも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

- SDロゴは登録商標です。
- Windows、Internet ExplorerおよびDirectXは米国マイクロソフト社の商標です。
- AppleおよびMacintoshは米国アップルコンピューター社の商標です。
- MultiMediaCard™は、独Infineon Technologies AG社の商標であり、MMCA(MultiMediaCard Association)にライセンスされています。
- AcrobatおよびAcrobat Readerは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- USBドライバ(マスストレージ)はPhoenix Technologies社のソフトウェアを使用しています。
Compatibility Software Copyright© 1997
Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved.
- MPEG Layer-3 オーディオ・デコーディング・テクノロジーは、Fraunhofer IISおよびThomson multimediaからライセンス供与されています。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。
- Photo Loader、Photohandsはカシオ計算機(株)の著作物であり、上記を除き、これにかかわる著作物およびその他の権利はすべてカシオ計算機(株)に帰属します。

本機の特徴

- 有効画素124万画素
  実用上充分な画素数でありながら、パソコン上での編集などで扱いやすい有効画素数124万画素（CCD総画素数134万画素）。また、補間処理により200万画素相当の1,600×1,200pixelsでの記録を可能にしています。
- クイックな操作性を実現する単焦点・固定焦点レンズ
  レンズの初期動作がないため、起動時間が短く、また、撮影時の素早いシャッターも実現します。
- 1.6型TFTカラー液晶モニター搭載
- 4倍デジタルズーム搭載
- 12MBフラッシュメモリー内蔵
  メモリーカードを使用しなくても撮影ができます。
- 拡張用メモリーカードとしてSDメモリーカードとMMC（マルチメディアカード）に対応
- カメラをUSBクレードルにセットするだけで、カメラ内の充電式電池を充電することができます。
- カメラをUSBクレードルにセットするだけで、簡単にパソコンへ画像データを転送することができます。
- DCF（Design rule for Camera File system）対応
  画像データは統一規格のDCF規格に準拠しているため、同規格に準じた他の機器との互換性があります。
- DPOF（Digital Print Order Format）対応
  DPOF規格に対応しているため、同規格に準じたデジタルDPEサービスを簡単に利用することが可能です。
- PRINT Image MatchingⅡ対応
  本製品はPRINT Image MatchingⅡに対応しています。PRINT Image MatchingⅡ対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。
- 「Photo Loader」、「Photohands」付属
  好評な自動取り込み機能を備えたPhoto Loaderの最新版を付属。メール自動添付機能などが加わりました。レタッチ機能を備えたPhotohands も付属。更に多彩に画像を活用できます。

※EX-M1にのみ、下記の機能が搭載されています。

- 画像撮影後、続けて音声も録音可能な音声付き静止画撮影モードを搭載
- 音声付きムービー撮影機能を搭載
- 音声を録音することができるボイスレコード機能を搭載
- 撮影済みの画像に音声を追加するアフターレコーディング機能を搭載
- オーディオプレイヤーとして使用可能
  お手持ちのMP3（MPEG-1 Audio Layer-3）ファイルの音楽データを再生することができます。

使用上のご注意

撮影前のご注意

必ず事前にためし撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。
  - 記録､通信中に電池をはずした
  - 撮影中などにメモリーカードを抜いた
  - 電源を切ったときに【動作確認用／フラッシュチャージランプ】が点滅している状態で電池を抜いた、メモリーカードを抜いた、USBクレードルにセットした
  - 通信中にUSBケーブルがはずれたり、USBクレードルからカメラやACアダプターがはずれた
  - 消耗した電池を使用し続けた
  - その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示されます（91ページ）。画面に対応したご処置をお願いいたします。

使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃～40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 直射日光のあたる場所、湿気やホコリの多い場所
  - 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  - 日中の車内、振動の多い場所

結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く（結露）ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、電池ブタを開けたまま数時間放置してください。

LEDバックライトについて

- 液晶画面のバックライトに使用されているLEDには寿命があります。液晶画面が暗くなった場合は、最寄りのカシオテクノ・サービスステーション（96ページ）までご連絡ください。有償にてお取り替え致します。LEDの明るさは、約1,000時間で半減します。

レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。

その他の注意

- 使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

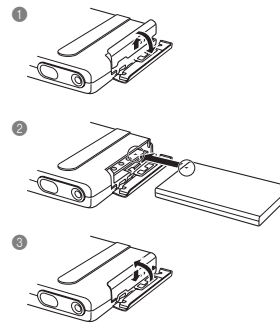
早分かりガイド

準備をする

1. **電池を入れます（21ページ）。**

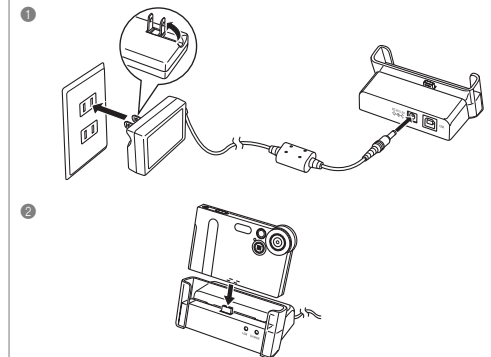
❶

❷

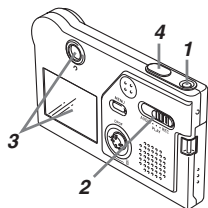
❸

2. **カメラをUSBクレードルにセットして､電池を充電します（22ページ）。**

- 約2時間でフル充電されます。

❶

❷

3. **画面メッセージの言語と日時を設定します（27ページ）。**

撮影する

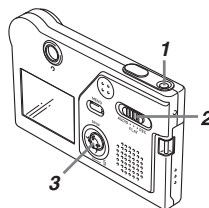
（詳しくは28ページ参照）

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【モードスイッチ】を"REC"に合わせます。

3. カメラを撮影する被写体に向け、【液晶モニター】または【ファインダー】を覗いて、構図を決めます。

4. カメラを固定し、静かに【シャッター】を押します。

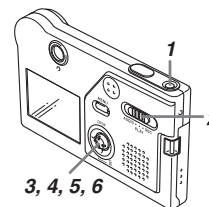
撮影したファイルを見る（再生する）

（詳しくは43ページ参照）

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【モードスイッチ】を"PLAY"に合わせます。

3. 【コントロールボタン】を◀▶に倒すと、記録したファイルの戻し／送りができます。

撮影したファイルを消去する

（詳しくは49ページ参照）

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【モードスイッチ】を"PLAY"に合わせます。

3. 【コントロールボタン】を▼（🗑）に倒します。

4. 【コントロールボタン】を◀▶に倒して、消去したいファイルを選びます。

5. 【コントロールボタン】を▲▼に倒して、"消去"を選びます。

- 消去を中止したいときは、"キャンセル"を選んでください。

6. 【コントロールボタン】の中央を押します。

- ファイルが消去されます。

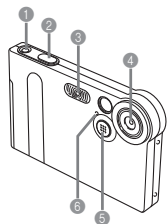
準備する

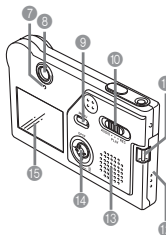
初めてご使用になる方はここからお読みになり、撮影前の準備を行ってください。

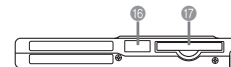
各部の名称

この取扱説明書では、本機の各部の名称を次のように【　】を使って表記します。スイッチやボタンなどの場所がわからなくなった場合は、こちらをご参照ください。

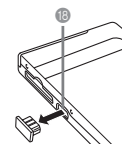
カメラ本体

■ 前面部

①【電源ボタン】
②【シャッター】
③【フラッシュ】
④【レンズ】
⑤【マイク】（EX-M1のみ）
⑥【セルフタイマーランプ】

■後面部

⑦【動作確認用／フラッシュチャージランプ】
⑧【ファインダー】
⑨【MENU】
⑩【モードスイッチ】
⑪【ストラップ穴】
⑫【電池カバー】
⑬【スピーカー】（EX-M1のみ）
⑭【コントロールボタン】
※ このボタンは【▲】【▼】【◀】【▶】または【●】と表記する場合があります。
⑮【液晶モニター】

■底面部

⑯【端子カバー】
⑰【メモリーカード挿入口】
メモリーカードを使用しないときは、本機を保護するために、必ず付属のダミーカードを入れておいてください。

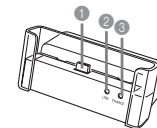
端子カバーのはずしかた

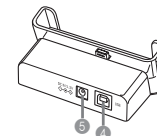
USBクレードル（または液晶リモコン）を接続しないときは、【端子カバー】を【クレードル接続端子】に取り付けておいてください。

⑱【クレードル接続端子】
※ EX-M1では【リモコン接続端子】としても使用します。

USBクレードル

カメラをUSBクレードルにセットするだけで、次のようなことができます。

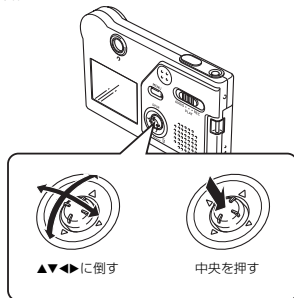
- 充電式電池を充電することができます（22ページ）。
- 撮影した画像を、自動的にパソコンに転送することができます（70ページ）。

■前面部

①【カメラ接続端子】
②【USBランプ】
③【CHARGEランプ】

■後面部

④【USB】
（USB接続端子）
⑤【DC IN 5.3V】
（外部電源端子）

参考 • EX-M1に付属の液晶リモコンの各部の名称については、「オーディオプレイヤーの使いかた」（79ページ）をご覧ください。

コントロールボタンの使いかた

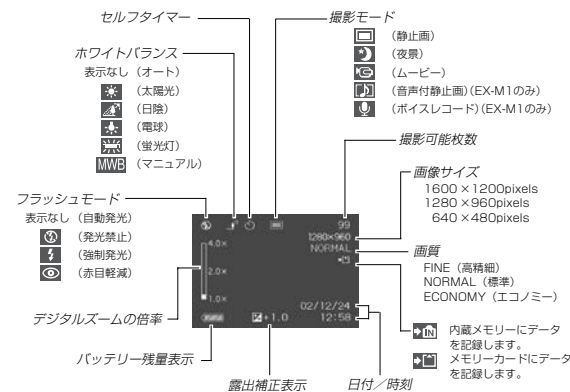
【コントロールボタン】は、▲▼◀▶に倒したり、中央を押すことにより操作します。

- メニュー画面が表示されているときは、【コントロールボタン】を▲▼◀▶に倒してタブや設定項目を選びます。【コントロールボタン】の中央を押すと、選んだ内容が決定します。
- PLAYモードでファイルを消去(49ページ)するときは【コントロールボタン】を▼(🗑)に、DPOF機能(53ページ)により印刷設定を行うときは【コントロールボタン】を▲(DPOF)に倒します。

以降、この取扱説明書では【コントロールボタン】の操作方法を次のように表記します。

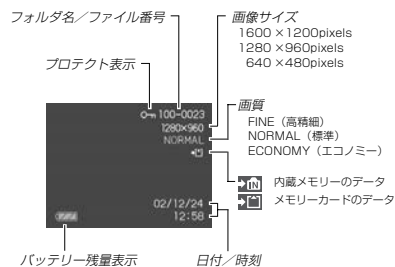
- 【コントロールボタン】を▲▼◀▶に倒す操作
 → 【▲】【▼】【◀】【▶】を倒す
- 【コントロールボタン】の中央を押す操作
 → 【●】を押す

液晶モニターの表示内容

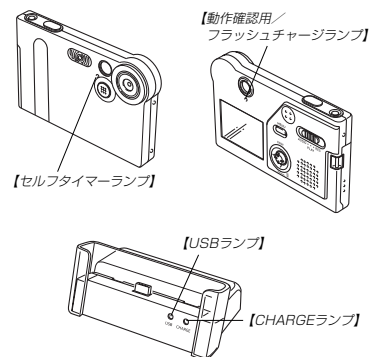
【液晶モニター】には、さまざまな情報が表示されます。

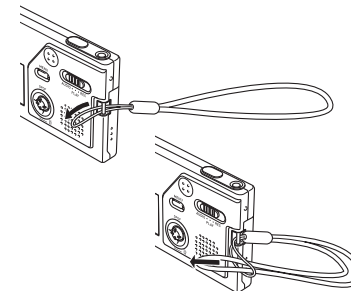
■RECモード時

参考 • 【液晶モニター】の点灯／消灯の設定ができます。
詳しくは「表示のオン／オフを切り替える」(41ページ)をご覧ください。

■PLAYモード時

フォルダ名／ファイル番号
画像サイズ
1600 ×1200pixels
1280 ×960pixels
640 ×480pixels
プロテクト表示
100-0023
1280×960
NORMAL
画質
FINE（高精細）
NORMAL（標準）
ECONOMY（エコノミー）
内蔵メモリーのデータ
メモリーカードのデータ
02/12/24
12:58
バッテリー残量表示
日付／時刻

重要! • 本機以外のカメラで撮影された画像は、情報が正常に表示されない場合があります。

ランプについて

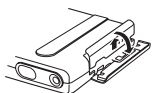
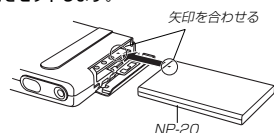
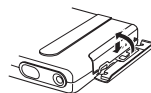
ランプの色や点灯、点滅によってカメラ本体やUSBクレードルの動作状況を知ることができます。詳しくは「ランプの状態と動作内容」(85ページ)をご覧ください。

ストラップの取り付けかた

ストラップは、図のように【ストラップ穴】に取り付けます。

重要! • 本機操作時は落下を防止するため、必ずストラップに指を通した状態で使用してください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。

電源について

本機は専用リチウムイオン充電池（NP-20）を電源として利用します。

充電式電池を入れる

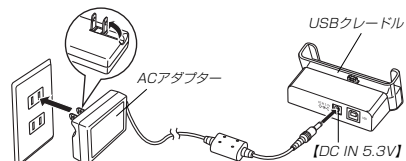
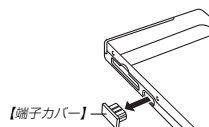
1. **本体側面の【電池カバー】を押しながら、矢印の方向にスライドさせて開きます。**

2. **図のようにカメラと電池の矢印を合わせるようにして、電池をセットします。**

3. **【電池カバー】を図のように矢印の方向に押しつけながら、スライドして閉めます。**

重要! • 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池（NP-20）をお使いください。他の電池は使用できません。

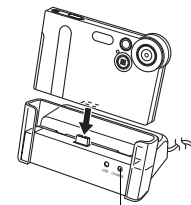
参考 • 電池を取り出したいときは、【電池カバー】を開いてカメラを傾けてください。電池が少し出てきますので、引き抜いてください。

> 電池は、最初充電されておりません。次ページに従って充電してください。

充電式電池を充電する

1. **USBクレードルの【DC IN 5.3V】に付属のACアダプターを接続します。**

2. **ACアダプターのプラグを起こし、家庭用コンセントに接続します。**

3. **カメラの電源を切り、カメラ底部の【端子カバー】をはずします。**

4. **カメラをUSBクレードルの上にセットします。**

• USBクレードルの【CHARGEランプ】が赤色に点灯し、充電を開始します。充電を完了すると、【CHARGEランプ】が緑色の点灯に変わります。

5. **充電を完了したら、USBクレードルからカメラを取りはずし、【端子カバー】を付けます。**

重要!
- 約2時間※でフル充電されます。
  ※ 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって変化します。
- 専用リチウムイオン充電池（NP-20）の充電は、必ずUSBクレードルをお使いください。他の充電器は使用できません。
- ACアダプターは、必ず付属のACアダプターをお使いください。それ以外のACアダプターは使用しないでください（別売品：AD-C620J／C630Jは使用できません）。
- カメラの【クレードル接続端子】は、USBクレードルの【カメラ接続端子】にしっかりと差し込んでください。
- カメラ使用直後や周辺温度が高温状態または低温状態で充電しようとすると、充電が開始されない場合があります（【CHARGEランプ】がオレンジ色に点灯します）。その場合は常温で放置し、電池の温度が充電可能な温度になると、充電を開始します（【CHARGEランプ】が赤色点灯に変わります）。
- 充電中にエラーが起こったときは【CHARGEランプ】が赤色に点滅します。原因は、本体の不良、カメラや電池のセット（装着）不良、電池不良です。USBクレードルからカメラを取りはずし、カメラが動作するか確認してください。カメラが動作する場合は、電池を使い切ってから充電してください。
  動作しない場合は、電池のセット不良の可能性があります。電池をカメラからはずし、電池接点部が汚れていないか確認してください。汚れている場合は、乾いた布で拭いてください。また、ACアダプターのコンセントやプラグがはずれかけていないか確認してください。
  上記確認の後、再度USBクレードルにカメラをセットしても同じ症状になる場合は、カシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。
- USBクレードル上では、充電およびUSB通信しかできません。

■電池寿命の目安

下記の電池寿命は、標準温度（25℃）で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

項目	目安
連続撮影時間（撮影枚数）	約1時間20分（約480枚）
連続再生時間（静止画）	約1時間50分
ボイスレコード録音時間※	約1時間20分
オーディオ再生時間※	約5時間30分

- 測定条件
  標準温度（25℃）／連続撮影／フラッシュ非点灯
  仮に上記条件で1分毎に1枚ずつ撮影した場合は、上記数値の約1/6になります。
  ボイスレコード録音時間※は連続で録音したときの時間です。
  オーディオ再生時間※は連続で再生（ヘッドホン出力）したときの時間です。
- 上記数値は、新品の電池のフル充電状態での数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- フラッシュの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

※ ボイスレコード録音時間／オーディオ再生時間は、EX-M1の場合のみです。

■電池を長持ちさせるために

フラッシュを使用しないで撮影するときは、メニュー画面からフラッシュの発光方法を［発光禁止アイコン］（発光禁止）に設定してご使用いただくと、電池寿命が長くなります（31ページ参照）。

■バッテリー残量表示

電池が消耗すると【液晶モニター】に表示されているバッテリー残量表示が下記表のように変化します。［電池アイコン］の状態で使用し続けると、自動的に電源が切れます。速やかに電池を充電し直してください。

電池残量	多 ← → 少
画面情報表示	［電池アイコン］ → ［電池アイコン］ → ［電池アイコン］

電源に関する使用上の注意

■電池使用時の注意

リチウムイオン充電池（NP-20）の使用上の注意に関しては、同梱の「リチウムイオン充電池取扱説明書」をお読みください。

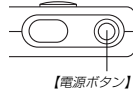
■USBクレードル／ACアダプター使用時の注意

●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります。
●ACアダプターの電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。
●ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
●濡れた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
●万一、ACアダプターの電源コードが傷んだら(芯線の露出・断線など)、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

- ACアダプターを抜き差しする際は、必ずカメラをUSBクレードルから取りはずした状態で行ってください。
- 充電中、USB通信中、ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、ACアダプターをコンセントから必ずはずしてください。

電源を入れる／切る

電源の入／切は【電源ボタン】で行います。

【電源ボタン】を押すと電源が入り、【動作確認用／フラッシュチャージランプ】が緑色に点滅します。再度【電源ボタン】を押すと、電源が切れます。

【電源ボタン】

重要! • オートパワーオフ機能により電源が切れた場合は、【電源ボタン】を押して、再度電源を入れてください。

電池の消耗を抑えるための機能(オートパワーオフ)

本機の電源を入れたままで一定時間操作しないと、電池の消耗を抑えるために電源が切れます。電源が切れるまでの時間は使用中のモードによって異なります。

モード	電源が切れるまでの時間
RECモード	約2分
PLAYモード	約2分
AUDIOモード(EX-M1のみ)	約10秒

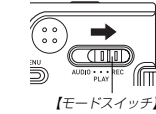
メニュー画面の操作について

本機ではメニュー画面を使用してさまざまな操作を行います。この操作をまず覚えてください。【MENU】を押すと、メニュー画面が表示されます。メニューの内容はREC(撮影)モードとPLAY(再生)モードでは異なります。ここでは例としてRECモードでの操作を説明します。

1. 電源を入れ、【モードスイッチ】を“REC”に合わせます。
- PLAYモードにして操作を行うときは“PLAY”に合わせます。

【モードスイッチ】

2. 【MENU】を押します。

タブ

設定項目

●メニュー画面で使うキーについて

【コントロールボタン】	【◀】【▶】を倒す	タブを選びます。【▶】は項目の決定にも使います。
	【▲】【▼】を倒す	設定項目を選びます。
	【●】(中央)を押す	選択した項目に決定します。
【MENU】		メニュー画面の操作を中断します。

3. 【◀】【▶】で設定したい項目のあるタブを選びます。

4. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を倒します。
- 【▶】を倒す代わりに【●】を押しても、次の画面に移ります。

例）設定項目“フラッシュ”を選んだ場合

5. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。
- 選択した設定内容に決定されます。

- メニューの内容については「メニュー一覧表」(84ページ)を参照してください。

表示言語／日時を設定する

お買い上げ後初めて撮影をする前に、下記の設定を行ってください。

- 画面のメッセージの言語設定。
- 日時設定(この日時は、印刷情報などに利用されます)。

重要! • 電池やUSBクレードルで電源が供給されないと、日時がリセットされてしまいます。その場合は、日時設定画面が表示されますので、再度日時を設定してください。
- 電池が消耗した状態で放置すると、約1日で日時がリセットされます。
- 言語と日時がリセットされているときに電源を入れると、毎回、言語設定画面が表示されます。
- 日時を設定しないと、間違った時間データによって記録されてしまいますので、必ず設定してください。

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【▲】【▼】で言語を選びます。

日本語 ：日本語
English ：英語
Français：フランス語
Deutsch ：ドイツ語
Español ：スペイン語
Italiano ：イタリア語

3. 【●】を押して、言語を設定します。

4. 日付と時刻を合わせます。

【▲】【▼】を倒す：
カーソル(選択枠)の部分の数字などを変えます。
【◀】【▶】を倒す：
カーソル(選択枠)を移動します。

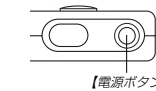
5. 【●】を押して、設定を終了します。

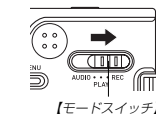
撮影する(基本編)

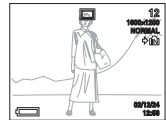
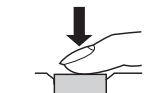
ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。

基本的な撮影のしかた

本機では被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵フラッシュメモリーに保存されます。
- 市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉)に保存することもできます(61ページ)。

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。
- 【液晶モニター】に画像またはメッセージが表示されます。

【電源ボタン】

2. 【モードスイッチ】を“REC”に合わせます。
- RECモードになり、撮影できる状態になります。

【モードスイッチ】

3. 【液晶モニター】を被写体に合わせます。
- 撮影できる範囲は約1m～∞です。
- レンズや各センサーを指でふさがないでください。
- 【ファインダー】から被写体を見て撮影することもできます。
- 【ファインダー】から被写体を見るときは【液晶モニター】を消して電力の消費を減らすことができます(41ページ)。

4. 【シャッター】を押します。
- 画像が撮影されます。

- 画質によって保存できる枚数が異なります(33ページ)。
- 被写体との距離や【ファインダー】を覗く角度によって、実際に写る範囲と異なります。
- 手ぶれを起こさないために、【シャッター】は静かに押してください。

撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の映像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。

撮影時のご注意

- 【動作確認用／フラッシュチャージランプ】が緑色に点滅している間に【電池ブタ】を開けたり、カメラをUSBクレードルにセットすることは、絶対にお止めください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなるおそれがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー（人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき）を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- 被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズがのる場合があります。
- 被写体が暗いときは感度を上げてシャッタースピードを早くなるようにしていますが、フラッシュの発光方法（31ページ）が（発光禁止）のときには手ぶれに注意してください。
- 不要な光がレンズに当たる場合は、手で遮光してから撮影してください。

ズームを使って撮影する

本機のズームは、デジタルズームを採用しています。デジタルズームは画面の中央を拡大して記録します。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1～4倍

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。

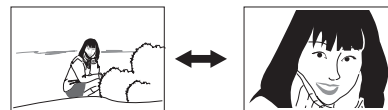
3. 【▲】【▼】で"デジタルズーム"を選び、【▶】を倒します。

4. 【▲】【▼】で"入"を選び、【●】を押します。
- "切"を選ぶと、デジタルズームは働きません。

5. 【▲】【▼】でズームの倍率を変えます。
【▲】を倒す：望遠になります。
【▼】を倒す：広角になります。

広角　　望遠

6. 撮影します。

重要!
- 【液晶モニター】の表示を"表示なし"に設定している場合は、ズームを使って撮影することはできません（41ページ）。
- デジタルズームを解除したいときは、"撮影設定"タブの"デジタルズーム"を"切"に設定してください。

フラッシュを使って撮影する

撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で"フラッシュ"を選び、【▶】を倒します。

4. 【▲】【▼】でフラッシュの発光方法を選び、【●】を押します。

オート（自動発光）	：露出に合わせて自動的に発光します。
（発光禁止）	：露出に関係なく発光しません。
（強制発光）	：露出に関係なく強制的に発光します。
（赤目軽減）	：フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。

5. 撮影します。

重要!
- フラッシュ撮影時、フラッシュは数回発光します。最初にプリ発光（露出情報を得るための予備発光）し、最後にメイン発光（フラッシュ撮影するための発光）することにより、最適な発光量でフラッシュ撮影が行われます。メイン発光が終わるまで、カメラは動かさないでください。
- 【動作確認用／フラッシュチャージランプ】がオレンジ色で点滅中に【シャッター】を押しても、撮影できない場合があります。

参考
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】でフラッシュの発光方法が変更できるように切り替えられます（42ページ）。

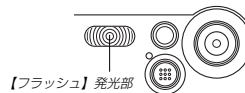
■赤目軽減機能について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光（写す人の瞳孔を小さくするための発光）することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

重要!
- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
  - 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
  - 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ】発光部が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。

【フラッシュ】発光部

- フラッシュによる撮影距離は下記の通りです。この範囲外の被写体に対しては適切な効果が得られません。
  約1m～約2m
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件（電池の状態や温度等）により異なります。
  数秒～10秒程度（フル充電の場合）
- ムービーモードの場合は、フラッシュは発光しません。このとき（発光禁止）が表示されます。
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあります。このとき（発光禁止）が点灯し、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことを示します。速やかに電池を充電してください。
- （赤目軽減）では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、ホワイトバランスが固定されるため、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

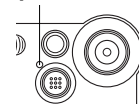
セルフタイマーを使って撮影する

【シャッター】を押してから約10秒後に撮影することができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で"セルフタイマー"を選び、【▶】を倒します。

4. 【▲】【▼】で"10秒"を選び、【●】を押します。
- "切"を選ぶと、セルフタイマーは働きません。

5. 撮影します。
- 【セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。
- セルフタイマーは、1回撮影するごとに"切"になります。

【セルフタイマーランプ】

画像サイズと画質を変える

本機は撮影する内容に応じて、画像サイズと画質の切り替えができます。

画像サイズを変更する

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で"サイズ"を選び、【▶】を倒します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。

1600×1200 ： 1600×1200pixelsで記録します。
1280×960 ： 1280×960pixelsで記録します。
640×480 ： 640×480pixelsで記録します。

参考 • 大きくプリントしたいときは"1600×1200"を、メールで画像データを送ったり、多くの画像を撮影したいときは"640×480"を選んでください。

画質を変更する

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で"画質"を選び、【▶】を倒します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。

高精細 ： 高画質で記録します。
標準 ： 標準の画質で記録します。
エコノミー ： 低画質で記録します。

参考 • 画質が"高精細"→"標準"→"エコノミー"となるに従って、画像容量は小さくなります。画質を優先するときは"高精細"を、撮影枚数を優先するときは"エコノミー"を選んでください。

重要! • 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります(18、93ページ)。

撮影する(応用編)

本機はさまざまな機能の切り替えにより、多彩な応用撮影ができます。

露出を補正する(EVシフト)

本機は撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を下記の値に手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正値：−2.0EV〜+2.0EV
補正単位 ：1/3EV

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"EVシフト"と選び、【▶】を倒します。

露出補正表示

3. 【▲】【▼】で露出補正値を選び、【●】を押します。

- これで露出補正値が記録されました。

【▲】： +方向に補正されます。白い物の撮影や逆光での撮影のときに押します。

【▼】： −方向に補正されます。黒い物の撮影や晴天の野外などのときに押します。

- 露出補正値をもとに戻したいときは、反対方向に露出補正して"0.0"に合わせてください。

4. 撮影します。

重要! • 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

参考 • キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】で露出値が補正できるように切り替えられます(42ページ)。

ホワイトバランスを変える

被写体は、太陽光や電球の光など光源の波長によって色味が異なっています。ホワイトバランスとは、被写体を自然な色合いで撮影できるように白を基準に色味を調整することです。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"ホワイトバランス"と選び、【▶】を倒します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。

オート ： 自動的にホワイトバランスを調整します。
(太陽光)： 屋外での撮影時
(日陰) ： 日陰で青みがかるとき
(電球) ： 電球下で赤みがかるとき
(蛍光灯)： 蛍光灯下で緑がかるとき
マニュアル ： 現在の光源に合わせて手動で設定します。詳しくは「マニュアルホワイトバランスの設定」(36ページ)を参照してください。

参考 • "マニュアル"を選ぶと、前回マニュアルホワイトバランスを設定した際の値に設定されます。
• キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】でホワイトバランスが変更できるように切り替えられます(42ページ)。

マニュアルホワイトバランスの設定

ホワイトバランスの"オート"では光源によって自動調整の処理に時間がかかったり、調整できる範囲(色温度)に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定は、白い紙などを画面に一杯に写した状態で行ってください。

1. 「ホワイトバランスを変える」(35ページ)の手順3で"マニュアル"を選びます。

- 【液晶モニター】には、前回調整したバランスで被写体が表示されます。

2. 画面全体に白い紙などを写した状態で【シャッター】を押します。

- ホワイトバランスを調整します。

3. 【●】を押します。

- ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。
- 暗い所や色の濃いものでホワイトバランスを調整すると時間がかかります。

夜景を撮影する(夜景モード)

フラッシュ撮影時、スローシャッターで夜景を美しく撮影することができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"撮影モード"と選び、【▶】を倒します。

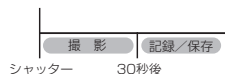
3. 【▲】【▼】で"(夜景)"を選び、【●】を押します。

4. 撮影します。

重要! • 夜景モードでは、フラッシュを発光しても被写体の明るさに応じてシャッター速度が遅くなるので、手ぶれに注意してください。

参考 • 夕暮れや夜景などを背景に人物を撮影する場合などに夜景モードとフラッシュを組み合わせることで、背景と人物をきれいに撮影することができます。(スローシンクロ撮影)

動画を撮影する(ムービーモード)

一度に最大30秒まで動画を撮影することができます。EX-S1は動画を、EX-M1は音声付き動画を撮影することができます。

● ファイル形式:AVI形式
AVI形式は、Open DML グループが提唱したMotion JPEGフォーマットに準拠しています。

● 画像サイズ:320×240pixels

● 動画ファイルサイズ:約150KB/秒

● 撮影可能なムービーの時間:
- 一度に撮影可能な最長時間:30秒
- 撮影可能なトータル時間:
内蔵メモリーで最長約1分20秒、64MBのSDメモリーカードで最長約6分50秒

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"撮影モード"と選び、【▶】を倒します。

3. 【▲】【▼】で"(ムービー)"を選び、【●】を押します。
- 「残りセット数」は、30秒の動画をあと何回撮影できるかを示しています。

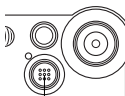
残りセット数

撮影可能時間

4. 撮影する被写体にカメラを向け、【シャッター】を押します。
- 30秒間、動画撮影が続きます。
- 動画撮影中は【液晶モニター】に"残り撮影時間"を表示します。
- 動画撮影を30秒以内で終了させたいときは、もう一度【シャッター】を押してください。

5. 動画撮影が終了したら、動画ファイルをカメラのメモリーに保存するために、【シャッター】を押します。
- 動画ファイルの保存を中止したいときは、保存中に【▼】を倒した後、"消去"を選び、【●】を押してください。

重要! • フラッシュは発光しません。
• EX-M1では音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
－指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。

【マイク】

－録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
－録音中にボタン操作をすると、操作音が入ることがあります。
－音声はモノラルで録音されます。

音声を記録する(EX-M1のみ)

画像に音声を加えて記録する(音声付き静止画撮影モード)

画像撮影後に、音声を録音することができます。

● 画像形式:JPEG形式
画像を効率よく圧縮するための画像フォーマットです。
拡張子は".JPG"となります。

● 録音形式:WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。
拡張子は".WAV"となります。

● 録音時間:1画像につき最長約30秒間

● 音声ファイルサイズ:
約120KB(約4KB/秒で30秒間録音時)

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"撮影モード"と選び、【▶】を倒します。

3. 【▲】【▼】で"(音声付静止画)"を選び、【●】を押します。
- 音声付き静止画撮影モードになります。

4. 【シャッター】を押して、画像を撮影します。
- 画像を撮影した後、音声録音スタンバイ状態になります(今、撮影した画像が表示されます)。
- 音声録音スタンバイ状態で【MENU】を押すと、音声録音を解除することができます。

録音可能時間

5. 【シャッター】を押して、音声を録音します。
- 録音中は【動作確認用／フラッシュチャージランプ】が緑色に点滅します。
- 表示のオン／オフ切り替え(41ページ)で"表示なし"に設定しても、音声録音時には【液晶モニター】は点灯します。

6. 【シャッター】を押すか約30秒経つと録音を終了し、音声を記録します。

音声のみ記録する(ボイスレコードモード)

音声のみを録音することができます。

● 録音形式:WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。
拡張子は".WAV"となります。

● 録音時間:内蔵メモリー使用時で最長約50分

● 音声ファイルサイズ:
約120KB(約4KB/秒で30秒間録音時)

1. RECモードにして【MENU】を押します。

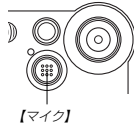
2. "撮影設定"タブ→"撮影モード"と選び、【▶】を倒します。

3. 【▲】【▼】で"(ボイスレコード)"を選び、【●】を押します。
- ボイスレコードモードになります。

録音可能時間

4. 【シャッター】を押して、音声を録音します。
- 録音中は【液晶モニター】に"録音時間"を表示します。また、【動作確認用／フラッシュチャージランプ】が緑色に点滅します。
- 録音中に【●】を押すと、【液晶モニター】が消灯します。音声の記録が終了すると、再び【液晶モニター】が点灯します。

5. 【シャッター】を押すかメモリーが一杯になるか、または電池が消耗すると録音を終了し、音声を記録します。

■ 音声記録時のご注意

- カメラ前面部にある【マイク】を必ず対象に向けてください。
- 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
- 録音中にボタン操作をすると、操作音が入ることがあります。
- 録音中に【電源ボタン】を押したり【モードスイッチ】を切り替えると、録音は中止となり、その時点までの音声が記録されます。
- 撮影済みの静止画像に、後から音声を追加(アフターレコーディング機能)することができます。また、録音済みの音声を記録し直すこともできます(46ページ)。

各種撮影機能を設定する

表示のオン/オフを切り替える

撮影時の消費電力を抑えたいときなどに、【液晶モニター】を消灯することができます。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **"撮影設定"タブ→"表示"と選び、【▶】を倒します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。**

表示なし:【液晶モニター】が消灯します。
表示あり:【液晶モニター】が点灯します。

重要! • 次の場合は"表示なし"に設定しても、【液晶モニター】は点灯します。
- 【MENU】を押した場合(約1分間表示されます)
- 【コントロールボタン】を◀▶に倒した場合
- 撮影モードがムービーモード/ボイスレコードモードのとき
- 音声付き静止画撮影モードで音声を記録しているとき

コントロールボタンの左右の操作を切り替える(キーカスタマイズ)

【コントロールボタン】を◀▶に倒す操作を、4つの中のどれか1つの機能の操作に割り当てることにより、操作しやすくすることができます。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **"撮影設定"タブ→"左右キー設定"と選び、【▶】を倒します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。**

- 【◀】【▶】で設定した機能が操作できるようになります。

撮影モード : 撮影モード(EX-S1は静止画/夜景/ムービー、EX-M1は静止画/夜景/ムービー/音声付静止画/ボイスレコード)が変更できます(84ページ)。
EVシフト : 露出値(EV値)が補正できます(34ページ)。
フラッシュ : フラッシュ発光方法が変更できます(31ページ)。
ホワイトバランス : ホワイトバランスが変更できます(35ページ)。

参考 • 初期設定は"撮影モード"の操作となります。

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源の入/切で毎回設定をし直す手間がはぶけます。

●モードメモリで設定できる機能

撮影モード、フラッシュ、デジタルズーム、ホワイトバランス

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **"モードメモリ"タブ→"設定したい機能"と選び、【▶】を倒します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。**

入:電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
切:電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機　能	入	切
撮影モード	最後のモード	静止画
フラッシュ		オート
デジタルズーム		入
ホワイトバランス		オート

再生する

本機は【液晶モニター】を備えていますので、記録されているファイルを本機だけで確認することができます。

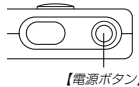
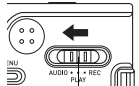
基本的な再生のしかた

記録されているファイルを順次送ったり戻したりしながら見ることができます。

1. **【電源ボタン】を押して、電源を入れます。**

- 【液晶モニター】に画像またはメッセージが表示されます。

2. **【モードスイッチ】を"PLAY"に合わせます。**

- PLAYモードになり、再生できる状態になります。

3. **【◀】【▶】でファイルを見ていきます。**

【▶】を倒す:進みます。
【◀】を倒す:戻ります。

参考 • 【◀】【▶】を倒し続けると、ファイルは早送りされます。
• このカメラで撮影されたファイルは、簡易画像で表示されます。

音声付き画像を再生する(EX-M1のみ)

音声付きの画像(♪が表示される画像)を見るときは、下記のように操作してください。

1. **PLAYモードにして、【◀】【▶】で音声付き画像を表示させます。**

2. **【●】を押します。**

- 画像に録音された音声がスピーカーから再生されます。

- 音声再生中に、次のような操作ができます。

音声を早戻し/早送りする ....【◀】【▶】を倒し続ける
再生と一時停止を切り替える.....【●】を押す
音量を調整する ....【▲】【▼】を倒す
再生を中断する ....【MENU】を押す

重要! • 音声付き画像の音量調整は、再生中のみ可能です。
• カメラに液晶リモコンを接続したときは、音声はスピーカーではなくステレオヘッドホンから出力されます(78ページ)。ただし、音声はモノラルとなります。

画像を拡大して表示する

撮影した画像を4倍まで拡大して表示させることができます。

1. **PLAYモードにして、【◀】【▶】で拡大したい画像を表示させます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **"再生機能"タブ→"拡大"と選び、【▶】を倒します。**

4. **【▲】で画像を拡大します。**

- 【▼】で画像を元の大きさに戻すことができます。

5. **【●】を押すと、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大した画像を上下左右にスクロールすることができます。**

- 再度【●】を押すと、【▲】【▼】で更に画像を拡大/縮小することができます。

6. **【MENU】を押すと、画像は元の大きさに戻ります。**

重要! • 動画は拡大表示できません。

画像サイズを変える（リサイズ）

撮影した静止画像のサイズを、次の2種類のサイズに変えることができます。

640×480pixlesのVGAサイズ
320×240pixlesのQVGAサイズ

- VGAサイズ／QVGAサイズの画像は、メールに添付する画像やホームページに貼り付ける画像に最適です。

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **"再生機能"タブ→"リサイズ"と選び、【▶】を倒します。**

3. **【◀】【▶】でサイズを変えたい画像を表示させます。**

4. **【▲】【▼】でリサイズ内容を選び、【●】を押します。**
640×480：640×480pixlesのVGAサイズに変えます。
320×240：320×240pixlesのQVGAサイズに変えます。
キャンセル：リサイズを中止します。

重要!
- リサイズした画像は、リサイズする前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 画像サイズが320×240pixles以下の画像はリサイズできません。
- このカメラで撮影した画像以外の画像は、リサイズできません。
- "このファイルではこの機能は使用できません"と表示された場合は、リサイズできません。
- リサイズした画像を保存できるだけメモリー容量が残っていない場合は、リサイズできません。

動画を再生する

ムービーモードで撮影した動画を再生することができます。

1. **PLAYモードにして、【◀】【▶】で再生したい動画を表示させます。**

動画アイコン

2. **【●】を押します。**
- 動画が再生されます。
- 動画再生中に、次のような操作ができます。
  早戻し／早送りする ....【◀】【▶】を倒し続ける
  再生と一時停止を切り替える ....【●】を押す
  一時停止中にコマ送りする ....【◀】【▶】を倒す
  再生を中断する ....【MENU】を押す
  音量を調整する（EX-M1のみ）.......【▲】【▼】を倒す

重要!
- 動画の再生は1回のみとなります。繰り返し再生は行いません。
- 動画の音量調整は、再生中のみ可能です。
- カメラに液晶リモコンを接続したときは、音声はスピーカーではなくステレオヘッドホンから出力されます（78ページ）。ただし、音声はモノラルとなります。

画像に音声を追加する（アフターレコーディング機能）（EX-M1のみ）

アフターレコーディング機能（アフレコ）により、撮影済みの画像に音声を追加することができます。また、音声付き画像（ が表示される画像）に録音された音声を、記録し直すことができます。

●録音形式：WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。拡張子は".WAV"となります。

●録音時間：1画像につき最長約30秒間

●音声ファイルサイズ：
約120KB（約4KB／秒で30秒間録音時）

1. **PLAYモードにして、【◀】【▶】で音声を追加したい画像を表示させます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **"再生機能"タブ→"アフレコ"と選び、【▶】を倒します。**

4. **【シャッター】を押して、音声を録音します。**

5. **【シャッター】を押すか約30秒経つと録音を終了し、音声を記録します。**

■音声を記録し直す

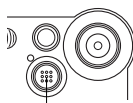
1. **PLAYモードにして、【◀】【▶】で音声を記録し直したい画像を表示させます。**

2. **音声追加（アフレコ）の手順2～3（46ページ）と同じ操作により"アフレコ"を選び、【▶】を倒します。**

3. **【▲】【▼】で"消去"を選び、【●】を押します。**
- 音声を消すだけにしたいときは、上の手順3操作後に【MENU】を押してください。

4. **音声追加（アフレコ）の手順4～5と同じ操作により、音声を録音します。**
- 前に録音していた音声は消え、新しい音声が録音されます。

重要!
- カメラ前面部にある【マイク】を必ず対象に向けてください。
- 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。

【マイク】

- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
- 録音中にボタン操作をすると、操作音が入ることがあります。
- 音声を追加した画像には、 （音声アイコン）が表示されます。
- メモリー容量が少ないときは、録音できない場合があります。
- 次の場合は音声を追加することはできません。
  －ムービー画像に音声を追加しようとした場合
  －画像にメモリープロテクトがかかっている場合（52ページ）
- 音声を記録し直した場合または音声を消去した場合、前に録音していた音声は消え、二度と元に戻すことはできません。音声を記録し直す際は、よく確かめてから行ってください。

音声を再生する（EX-M1のみ）

ボイスレコードファイルに録音した音声を再生します。

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】で、再生したい音声が録音されたボイスレコードファイル（ が表示される画像）を表示させます。**

2. **【●】を押します。**
- ボイスレコードファイルの音声がスピーカーから再生されます。

- 音声再生中に、次のような操作ができます。
  音声を早戻し／早送りする ....【◀】【▶】を倒し続ける
  再生と一時停止を切り替える ....【●】を押す
  音量を調整する ....【▲】【▼】を倒す
  再生を終了する ....【MENU】を押す

重要!
- ボイスレコードファイルの音量調整は、再生中のみ可能です。
- カメラに液晶リモコンを接続したときは、音声はスピーカーではなくステレオヘッドホンから出力されます（78ページ）。ただし、音声はモノラルとなります。

消去する

ファイルを消去する方法には次の２つの方法があります。

1ファイル ：ファイルを1ファイルずつ消去する。
全ファイル：すべてのファイルを消去する。

重要!
- 一度消去してしまった記録内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要なファイルかどうかをよく確かめてから行ってください。特に全ファイル消去の操作では、記録したすべての内容を一度に消去してしまいますので、内容をよく確かめてから操作してください。
- すべてのファイルがメモリープロテクト(52ページ)されている状態では、消去は実行できません。
- メモリープロテクトのかかったファイルは消去できません。メモリープロテクトを解除してから操作してください(52ページ)。
- EX-M1において音声付き静止画を消去すると、画像ファイルと音声ファイルの両方を消去します。

1ファイルずつ消去する

表示されているファイルを1ファイルずつ消去することができます。

1. PLAYモードにして【▼】(🗑)を倒します。

2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させます。

3. 【▲】【▼】で"消去"を選びます。
- 消去を中止したいときは、"キャンセル"を選んでください。

4. 【●】を押して、表示しているファイルを消去します。
- 手順2〜4を繰り返して、他のファイルを消去することができます。

5. 【MENU】を押して、消去操作を終了します。

重要!
- 消去できないファイルを消去しようとすると、"このファイルではこの機能は使用できません"と表示されます。

全ファイルを消去する

すべてのファイルを消去することができます。

1. PLAYモードにして【▼】(🗑)を倒します。

2. 【▲】【▼】で"全ファイル消去"を選び、【●】を押します。

3. 【▲】【▼】で"はい"を選びます。
- 消去を中止したいときは、"いいえ"を選んでください。

4. 【●】を押して、すべてのファイルを消去します。

ファイルの管理について

本機では画像の撮影や再生の他、画像プリント時の枚数指定等やファイルの消去防止の設定ができます。

フォルダの分類について

本機は内蔵フラッシュメモリーやメモリーカード内に、フォルダ(ディレクトリ)を自動的に作成します。

メモリー内のフォルダ／ファイルについて

撮影した画像は連番を名前としたフォルダの中に自動的に記録されます。フォルダは最大900作成されます。フォルダ名は次の通りです。

例：連番100のフォルダ名

100CASIO
連番(3桁)

各フォルダには最大9,999番までのファイルが登録できます。10,000枚以上撮影した場合は、次の連番のフォルダが自動的に作成されます。ファイル名は次の通りです。

例：26番目に記録したファイル名

CIMG0026.JPG
連番(4桁)　*拡張子*

- 保存できるフォルダ数、ファイル数は画質やメモリーカードの容量によって異なります。
- 詳しいディレクトリ構造に関しては「メモリー内のディレクトリ構造」(75ページ)をご覧ください。

記録したファイルにメモリープロテクト(消去防止)をかける

大事なファイルを誤って消去してしまうことを防止する機能(メモリープロテクト)がついています。メモリープロテクトをかけたファイルは、消去操作(49ページ)により消去することはできません。メモリープロテクトのかけかたには、1ファイル単位、全ファイルの2通りがあります。

1ファイル単位でメモリープロテクトをかける

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. "再生機能"タブ→"プロテクト"と選び、【▶】を倒します。

3. 【◀】【▶】でメモリープロテクトをかけたいファイルを表示させます。

4. 【▲】【▼】で"オン"を選び、【●】を押します。
- メモリープロテクトがかかり、🔑が画面上に表示されます。
- メモリープロテクトを解除するときは、"オフ"を選んでください。

5. 【MENU】を押して、メモリープロテクトを終了します。

全ファイルにメモリープロテクトをかける

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

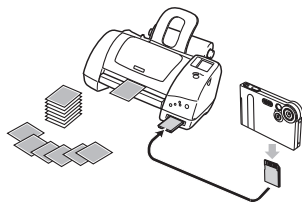
2. “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を倒します。

3. 【▲】【▼】で“全ファイル　オン”を選び、【●】を押します。
- メモリープロテクトを解除するときは、“全ファイル　オフ”を選んでください。

4. 【MENU】を押して、メモリープロテクトを終了します。

DPOF機能について

DPOF(Digital Print Order Format)とはデジタルカメラで撮影した中からプリントしたい画像や枚数などの設定情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するためのフォーマットです。DPOF対応の家庭用プリンターやサービスラボでプリントすることができます。
本機では撮影された画像ファイル名などを意識することなく、【液晶モニター】で確認しながらプリントしたい画像の設定を行うことができます。

- 設定可能な内容
  画像／枚数／日付

日付を付ける印刷設定を行う

参考 • 日付を付けて印刷したいときは、あらかじめ日付を“あり”に設定してから、印刷設定を行ってください。

1. PLAYモードにして【▲】(DPOF)を倒します。

2. 【▲】【▼】で“日付”を選び、【●】を押します。

3. 【▲】【▼】で“あり”を選び、【●】を押します。
- 日付が不要なときは、“なし”を選んでください。

1画像単位で印刷設定を行う

1. PLAYモードにして【▲】(DPOF)を倒します。

2. 【▲】【▼】で“選択画像”を選び、【●】を押します。

3. 【◀】【▶】で印刷したい画像を表示させます。

4. 【▲】【▼】で印刷する枚数を決めます。
- 印刷設定できる枚数は99枚までです。印刷したくない場合は“00”にしてください。
- 続けて印刷設定を行いたい場合は、3〜4の操作を繰り返してください。

5. 【●】を押して、印刷設定を終了します。

全画像に印刷設定を行う

1. PLAYモードにして【▲】(DPOF)を倒します。

2. 【▲】【▼】で“全画像”を選び、【●】を押します。

3. 【▲】【▼】で印刷する枚数を決めます。
- 印刷設定できる枚数は99枚までです。印刷したくない場合は“00”にしてください。

4. 【●】を押して、印刷設定を終了します。

PRINT Image MatchingⅡについて

本製品はPRINT Image MatchingⅡに対応しています。PRINT Image MatchingⅡ対応プリンタでの出力及び対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

PRINT Image Matching及びPRINT Image MatchingⅡに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

Exif Printについて

Exif Print (Exif2.2) は、対応プリンタをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。

重要! • 対応プリンタの機種名やプリンタのバージョンアップ等については、各プリンターメーカーへお問い合わせください。

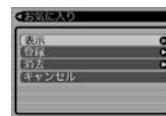
お気に入りフォルダの使いかた

記録した静止画を「記録フォルダ」(75ページ)から内蔵メモリーの「お気に入りフォルダ(“FAVORITE”フォルダ)」(75ページ)にコピーすることができます。ファイルをすぐ見たいときに便利です。

お気に入りフォルダにファイルをコピー(登録)する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を倒します。

3. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【●】を押します。
- 内蔵メモリーまたはメモリーカード内のファイル名が表示されます。

4. 【◀】【▶】で、お気に入りフォルダに登録したいファイルを選びます。

5. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【●】を押します。
- 内蔵メモリー内のお気に入りフォルダにファイルを登録します。

参考 • 画像は、320×240pixelsのQVGAサイズにリサイズしてコピーされます。
• 登録したファイルには、連番(0001〜9999)がファイル名として自動的に付けられます

お気に入りフォルダのファイルを表示する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。
2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を倒します。
3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【●】を押します。
4. 【◀】【▶】で、お気に入りフォルダに登録したファイルを見ていきます。
   【▶】を倒す：進みます。
   【◀】を倒す：戻ります。

ファイル名

参考 • 【◀】【▶】を倒し続けると、画像は早く送られます。

お気に入りフォルダからファイルを消去する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。
2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を倒します。
3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【●】を押します。
4. 【◀】【▶】で、お気に入りフォルダから消去したいファイルを選びます。
5. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【●】を押します。
   • お気に入りフォルダからファイルを消去します。

重要! • お気に入りフォルダのファイルは、49ページの消去操作により消去することはできません。ただし、フォーマット操作(60ページ)を行うと、消去されてしまいます。

その他の設定について

操作音のオン／オフを切り替える

操作音(BEEP音)のオン／オフを切り替えることができます。

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。
2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を倒します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。
   切：操作音は鳴りません。
   入：操作音が鳴ります。

起動画面のオン／オフを切り替える

電源を入れたとき、撮影した画像を起動画面として、【液晶モニター】に約2秒間表示するかどうかを切り替えることができます。

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。
2. “設定”タブ→“起動画面”と選び、【▶】を倒します。
3. 【◀】【▶】で、設定したい起動画面を表示させます。
   • 設定可能な画面は、静止画および2秒以下のムービー画像です。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。
   切： 起動画面は表示されません。
   入： 設定時に表示していた撮影画面を起動画面として表示します。

日時を設定し直す

日時を設定し直したいときは、下記のように操作してください。

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。
2. “設定”タブ→“日時設定”と選び、【▶】を倒します。
3. 日付と時刻を合わせます。
   【▲】【▼】を倒す：カーソル(選択枠)の部分の数字などを変えます。
   【◀】【▶】を倒す：カーソル(選択枠)を移動します。
4. 【●】を押して、設定を終了します。

日付の表示スタイルを切り替える

画面に表示される日付の表示スタイルを3通りの中から選ぶことができます。

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。
2. “設定”タブ→“表示スタイル”と選び、【▶】を倒します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。
   例)2002年10月23日
   年／月／日：02/10/23
   日／月／年：23/10/02
   月／日／年：10/23/02

表示言語を切り替える

画面のメッセージを6つの言語の中から選ぶことができます。

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。
2. “設定”タブ→“LANGUAGE”と選び、【▶】を倒します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【●】を押します。
   日本語　：日本語
   English　：英語
   Français：フランス語
   Deutsch　：ドイツ語
   Español　：スペイン語
   Italiano　：イタリア語

内蔵メモリーをフォーマットする

内蔵メモリーをフォーマットすると、内蔵メモリーの内容がすべて消去されます。

重要! • 内蔵メモリーをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
• ファイルデータにメモリープロテクト(52ページ)をかけていても、内蔵メモリーをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。

1. 本機にメモリーカードが入っていないことを確認します。
   • もしもメモリーカードが入っている場合は、取り出してください(62ページ)。
2. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。
3. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を倒します。
4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【●】を押します。
   • フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。

メモリーカードを使用する

本機は、市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉)を使用することにより、記録用のメモリーを拡張することができます。また、内蔵のフラッシュメモリーからメモリーカードに、またはメモリーカードから内蔵フラッシュメモリーにファイルをコピーすることもできます。

- ファイルが記録されるメモリーは、次のように自動的に切り替わります。

メモリーカードを入れていないときは	→	内蔵メモリーに記録されます。
メモリーカードを入れているときは	→	メモリーカードに記録されます。

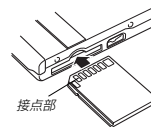
- メモリーカードを入れた状態で内蔵メモリーを使用することはできません。

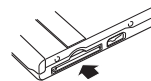
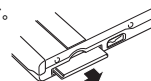
重要!
- メモリーカードの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- カードには、表裏、前後の方向があります。無理に入れようとすると破損の恐れがあります。
- メモリーカードを使う際はメモリーカードの取扱説明書もあわせてお読みください。
- MMC(マルチメディアカード)はSDメモリーカードと互換性があり、使用できますが、SDメモリーカードと比較すると処理速度が遅くなります。なるべくSDメモリーカードをご使用ください。
- SDメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。

メモリーカードの使いかた

メモリーカードを入れる

1. **メモリーカードの接点部のある方を本機のレンズ側に向け、【メモリーカード挿入口】にしっかり押し込みます。**

接点部

メモリーカードを取り出す

1. **メモリーカードを押すと、メモリーカードが少し出てきます。**

2. **メモリーカードを引き抜きます。**

重要!
- 故障の原因となりますので、【メモリーカード挿入口】にはメモリーカード以外のものを入れないでください。
- メモリーカードを使用しないときは、本機を保護するために、必ず付属のダミーカードを入れておいてください。
- ダミーカードは本機専用です。指定以外の機器には使用しないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。
- 【動作確認用/フラッシュチャージランプ】が点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像がメモリーカードに記録されなかったり、メモリーカードを破壊する場合があります。

メモリーカードをフォーマットする

メモリーカードをフォーマットすると、メモリーカードの内容がすべて消去されます。

重要!
- メモリーカードは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。
- メモリーカードをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- ファイルデータにメモリープロテクト(52ページ)をかけていても、メモリーカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。

1. **本機にメモリーカードを入れます。**

2. **電源を入れ、RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。**

3. **"設定"タブ→"フォーマット"と選び、【▶】を倒します。**

4. **【▲】【▼】で"フォーマット"を選び、【●】を押します。**
- フォーマットを実行しないときは、"キャンセル"を選んでください。

メモリーカードのご注意

- メモリーカードは必ずSDメモリーカードまたはMMC(マルチメディアカード)を使用してください。他のメモリーカードをお使いの場合は動作保障できません。
- 静電気、電気的ノイズ等により記録したデータが消滅または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア(MOディスク、ハードディスクなど)にバックアップして控えをとることをおすすめします。
- 万一メモリーカードの異常が発生した場合は、メモリーカードのフォーマットの操作で復帰できますが、外出先などでこの操作を行えない場合に備えて複数枚のメモリーカードを持たれることをおすすめします。
- 異常と思われる画像を撮影したり、新たにメモリーカードをご購入された場合は、一度フォーマット(初期化)してお使いいただくことをおすすめいたします。
- フォーマットの操作を行うときは、充電式電池をフル充電状態にしてから行ってください。フォーマット中に電源が切れると正しくフォーマットが行われず、メモリーカードが正常に使用できない場合があります。

ファイルをコピーする

内蔵フラッシュメモリーとメモリーカードの間で、ファイルをコピーすることができます。

内蔵メモリーからメモリーカードにファイルをコピーする

ファイルのコピーは、一括で行われます。

1. **本機にメモリーカードを入れます。**

2. **電源を入れ、PLAYモードにして【MENU】を押します。**

3. **"再生機能"タブ→"コピー"と選び、【▶】を倒します。**

4. **【▲】【▼】で"内蔵→カード"を選び、【●】を押します。**
- コピーが始まり、"処理中です　しばらくお待ちください"と表示されます。
- コピーが終わると、コピーしたフォルダの一番最後にあるファイルを表示します。

メモリーカードから内蔵メモリーにファイルをコピーする

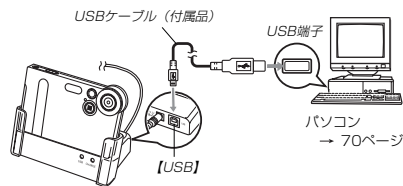
1. **「内蔵メモリーからメモリーカードにファイルをコピーする」の手順1〜3と同じ操作を行います。**

2. **【▲】【▼】で"カード→内蔵"を選び、【●】を押します。**

3. **【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選びます。**

4. **【▲】【▼】で"コピー"を選び、【●】を押します。**
- コピーが始まり、"処理中です　しばらくお待ちください"と表示されます。
- コピーが終わると、コピー前に表示していたファイルに戻ります。

パソコンでファイルを活用する

USB端子を備えたパソコンとカメラをUSBクレードルを介して接続して、ファイルを活用することができます。また、メモリーカードを直接接続できるパソコンでも、ファイルを活用することができます。

ソフトをインストールする

カメラで記録したファイルをパソコンで取り扱う前に、付属のCD-ROM内に収録されているソフトウェアをインストールする必要があります。

付属のCD-ROMについて

付属のCD-ROMには、以下のソフトウェアが収録されています。

Photo Loader（Windows用／Macintosh用）

JPEG/AVI形式で保存された画像データを、デジタルカメラからパソコンに自動で取り込み、HTML形式のファイルで画像整理を行えるソフトです。

- Windows版のみ、WAV形式で保存された音声データを取り込むことができます。

Photohands（Windows用）

画像データをレタッチしたり、印刷するためのソフトです。

USBドライバ（マスストレージ）（Windows用／Macintosh用）

デジタルカメラとパソコンをUSB接続するためのソフトです。

※ Windows XP、Mac OS 9/OS XではCD-ROM内のUSBドライバをインストールしないでください。USBケーブルでパソコンと接続するだけで、USB通信ができます。

Internet Explorer（Macintosh用）

HTMLファイルを読むためのブラウザソフトです。Photo Loaderで取り込んだ画像は、「ライブラリ」と呼ばれるフォルダに収められ管理されます。このソフトは、ライブラリ内の画像をパソコンのディスプレイ上で一覧表示するために使用します。

DirectX（Windows用）

デジタルカメラで撮影したムービーファイルを、Windows 98/2000で扱うためのコーディックが含まれる機能拡張ツールです。Windows XP/Meにはインストール不要です。

Acrobat Reader（Windows用／Macintosh用）

電子文書化されたPDFファイルを読むためのソフトです。CD-ROM内に収録されているPhoto Loader、Photohandsの取扱説明書を読むために使用します。

参考
- Photo Loader、Photohandsの操作方法に関する説明は、電子文章（PDFファイル）化され付属のCD-ROM内に収録されています。その取扱説明書をパソコンのディスプレイ上で表示する方法も本書に記載されていますので、「取扱説明書（PDFファイル）を読む」（68、70ページ）をよくお読みください。

パソコンの動作環境について

使用するソフトによって、必要な動作環境が異なります。以下の手順に従って確認してください。

Windows

付属のCD-ROM内の「お読みください」ファイルを参照して、使用するソフトの動作環境を確認してください。

Macintosh

付属のCD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルをブラウザソフトでご覧ください。

インストールする

付属のCD-ROM内に収録されているソフトウェアを、パソコンにインストールします。

参考
- 既にパソコンにインストールしているソフトウェアは、新たにインストールする必要はありません。

Windows

■ 準備

パソコンを起動させ、CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れるとMENUが自動的に起動します。

参考
- パソコンの設定によっては自動的にMENUが始まらない場合があります。この場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開きMENU.exeをダブルクリックして起動させてください。

■「お読みください」を読む

インストールする前に、必ずインストールするアプリケーションソフトの「お読みください」をお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. MENUの「ソフトウェア」をクリックします。

2. インストールしたいアプリケーションソフトをクリックします。

3. 「お読みください」ボタンをクリックします。

■ ソフトのインストール

1. MENUの「ソフトウェア」をクリックします。

2. インストールしたいアプリケーションソフトをクリックします。

3. 「インストール」ボタンをクリックします。

4. 手順にしたがってインストールします。

重要!
- Photo Loaderのバージョンアップ、再インストールやパソコンを変更する場合で、以前使用していたライブラリ情報を継続させる方法については、「お読みください」をご覧になり、手順をご確認願います。
  手順通りにインストールしない場合、以前のライブラリ管理情報やカレンダー形式のHTMLファイルがPhoto Loaderで見ることができなくなるばかりか、取り込んだ画像ファイルが消失する恐れがあります。
- Windows XP以外では、USBドライバをインストールする前に、パソコンとカメラを接続しないでください。

■ 取扱説明書（PDFファイル）を読む

1. MENUの「取扱説明書」をクリックします。

2. お読みになりたいアプリケーションソフトをクリックします。

3. 「読む」ボタンをクリックします。

重要!
- 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、「ソフトのインストール」でAdobe Acrobat Readerをインストールしてください。

■ 終了

1. MENUの「終了」をクリックします。
- MENUを終了します。

Macintosh

■「CD-ROMの使いかた」を読む

インストールする前に、必ず「CD-ROMの使いかた」をお読みください。もし読めない場合は、下記の手順で付属のInternet Explorerをインストールしてください。

1. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

2. CD-ROM内の「はじめに」ファイルを開きます。

3. 手順にしたがってInternet Explorerをインストールします。

■ ソフトのインストール

インストールする前に、インストールするアプリケーションソフトの「はじめにお読みください」を必ずお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

2. CD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。

3. 「ソフトウェアについて」をクリックします。

4. インストールするソフトウェア名をクリックし、インストール方法を確認します。

5. 手順にしたがってインストールします。

重要!
- Photo Loaderのバージョンアップ、再インストールやパソコンを変更する場合で、以前使用していたライブラリ情報を継続させる方法については、「お読みください」ファイルをご覧になり、手順をご確認願います。手順通りにインストールしない場合、以前のライブラリ管理情報やカレンダー形式のHTMLファイルがPhoto Loaderで見ることができなくなるばかりか、取り込んだ画像ファイルが消失する恐れがあります。
- Mac OS 9/OS X以外では、USBドライバをインストールする前に、パソコンとカメラを接続しないでください。

■ 取扱説明書（PDFファイル）を読む

1. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

2. CD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。

3. 「取扱説明書を読む」をクリックします。

4. 読みたいソフトウェア名をクリックし、取扱説明書を表示させます。

重要!
- 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、「ソフトのインストール」でAdobe Acrobat Readerをインストールしてください。

記録ファイルをパソコンに取り込む

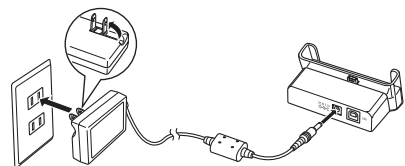
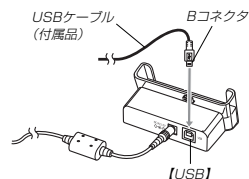
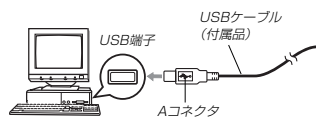
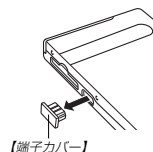
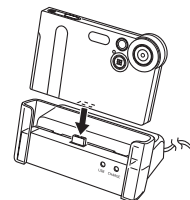
付属のCD-ROMに収録のソフト（USBドライバ・Photo Loader）を使用して、記録したファイルをデジタルデータの状態でパソコンに転送することができます。また、ソフト（Photo Loader・Photohands）を使用して、より高度な画像の管理・編集を行うこともできます。
- Photo Loader、Photohandsの使いかたについてはPhoto Loader、Photohandsの取扱説明書（PDFファイル）をお読みください。

USB端子により接続して取り込む

USB端子を備えたパソコンとUSBクレードルの【USB】を接続しておけば、カメラをUSBクレードルにセットするだけで、簡単にパソコンにファイルデータを転送することができます。
- 初めにUSBドライバをパソコンにインストールしてください（65ページ）。USBクレードルを介してパソコンと本機を接続するだけで、パソコン上の外部記憶装置（カードリーダー／ライター）として認識されるようになります。
- 内蔵フラッシュメモリーに保存されているファイルデータをパソコンに転送する場合は、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットしてください。

参考
- Windows XP、Mac OS 9/OS XではCD-ROM内のUSBドライバをインストールしないでください。USBケーブルでパソコンと接続するだけで、USB通信ができます。

■USB接続のしかた

1. 付属のACアダプターを、USBクレードルの【DC IN 5.3V】と家庭用コンセントに接続します。

2. 付属のUSBケーブルのBコネクタを、USBクレードルの【USB】に接続します。

3. パソコンの電源を切り、USBケーブルのAコネクタをパソコンのUSB端子に接続します。その後、パソコンの電源を入れます。

4. カメラの電源を切り、カメラ底部の【端子カバー】をはずします。

5. カメラをUSBクレードルの上にセットします。

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。

6. カメラの電源を入れます。
- カメラの電源を入れるとUSBモードになり、記録したファイルが自動的にパソコンに転送されます。
- USBモードになると、クレードルの【USBランプ】が緑色に点灯します（87ページ）。

重要!
- 接続する際は接続するパソコンの取扱説明書もあわせてお読みください。
- パソコンのモニターに同一の画像を表示して放置しておくことはお止めください。残像現象（画面焼け）をおこす場合があります。
- USBケーブルをUSBクレードルに接続するときは、USBクレードルのUSB接続端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されていないと、正常に動作しません。
- 必ずUSBクレードルにACアダプターを接続して、カメラに電源を供給してください。
- 別売のUSBケーブル（QC-1U）は使用できません。
- PCアクセス中（【USBランプ】が点滅中）にケーブルを抜かないでください。データが破壊される恐れがあります。
- RECモード、PLAYモードのどちらでもUSBでの通信ができます。

■USB接続のはずしかた

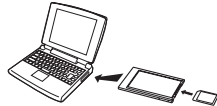
●WindowsXP/Me/98の場合

カメラの電源を切って、USBクレードルから取りはずします。

●Windows2000の場合

パソコン画面上のタスクトレイのカードサービスを左クリックし、カメラに割り当てられているドライブ番号の停止を選択します。その後、カメラの電源を切って、USBクレードルから取りはずします。

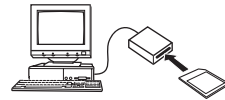
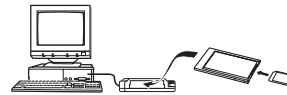
●Macintoshの場合

ファインダー上のカメラのドライブをゴミ箱に捨ててから、カメラの電源を切って、USBクレードルから取りはずします。

メモリーカードを直接接続して取り込む

パソコンとのファイルのやりとりをメモリーカードから直接行うことができます。パソコンの機種によって接続方法が異なります。代表的な接続方法は次の通りです。

- SDメモリーカードスロットのある機種
  SDメモリーカードを直接差し込みます。
- PCカードスロットのある機種
  市販のPCカードアダプター(SDメモリーカード/MMC用)を使用します。
  具体的な使用方法はPCカードアダプター(SDメモリーカード/MMC用)とパソコンに付属の取扱説明書を参照ください。

- 前記以外の機種

1) 市販のSDメモリーカード用リーダー/ライターを使用します。
   具体的な使用方法はSDメモリーカード用リーダー/ライターに付属の取扱説明書を参照ください。

2) 市販のPCカード用リーダー/ライターと市販のPCカードアダプター(SDメモリーカード/MMC用)を使用します。
   具体的な使用方法はPCカード用リーダー/ライターとPCカードアダプター(SDメモリーカード/MMC用)に付属の取扱説明書を参照ください。

メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像やその他のデータは、DCF(Design rule for Camera File system)規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。DCF規格とは、画像ファイルと画像に関連するファイルをデジタルカメラと関連機器の間で簡単に交換することを目的とした規格です。

■DCF規格について

DCF規格対応の機器(デジタルカメラやプリンターなど)の間で画像の互換性があります。画像ファイルのデータ形式やメモリー内のディレクトリ構造に規定がありますので、本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンターで印刷したりすることができます。逆にDCF規格対応の他社のデジタルカメラの画像も本機で見ることができます。

メモリー内のディレクトリ構造

■ディレクトリ構造

```
<¥DCIM¥>                    (親フォルダ)
 ├□ 100CASIO                (記録フォルダ)
 │     CIMG0001.JPG         (画像ファイル)
 │     CIMG0002.AVI         (ムービーファイル)
 │     CIMG0003.WAV         (音声ファイル)※1
 │     CIMG0004.JPG         (音声付き静止画/画像ファイル)※1
 │     CIMG0004.WAV         (音声付き静止画/音声ファイル)※1
 │        ⋮
 ├□ 101CASIO                (記録フォルダ)
 ├□ 102CASIO                (記録フォルダ)
 │        ⋮
<¥FAVORITE¥>                (お気に入りフォルダ)※2
 ├── CIMG0001.JPG           (記録ファイル)
 ├── CIMG0002.JPG           (記録ファイル)
 │        ⋮
<¥MISC¥>                    (DPOFファイルを収めたフォルダ)
 ├── AUTPRINT.MRK           (DPOFファイル)

<¥AUDIO¥>                   (MP3ファイルを収めたフォルダ)※1
 ├── ＊＊＊＊＊＊＊＊.MP3    (MP3ファイル)※1
```

※1 EX-M1にのみ存在するフォルダ/ファイルです。
※2 内蔵メモリー内にのみ作成されるフォルダです。

■フォルダ/ファイルの内容

- 親フォルダ
  デジタルカメラで扱うファイル全てを収めたフォルダです。
- 記録フォルダ
  デジタルカメラで記録したファイルを収めたフォルダです。
- 画像ファイル
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルです。
- ムービーファイル
  デジタルカメラで撮影したムービーファイルです。
- 音声ファイル
  音声を記録したファイルです。
- 音声付き静止画/画像ファイル
  音声付き静止画の画像を記録したファイルです。
- 音声付き静止画/音声ファイル
  音声付き静止画の音声を記録したファイルです。
- お気に入りフォルダ
  お気に入りの画像ファイルを収めたフォルダです。
- DPOFファイルを収めたフォルダ
  DPOFファイルなどを収めたフォルダです。
- MP3ファイルを収めたフォルダ
  MP3ファイルを収めたフォルダです。

このデジタルカメラで扱える画像ファイル

- EX-S1/EX-M1で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

※ DCF規格の機能で使用できない画像ファイルもあります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

パソコン上で内蔵メモリー/メモリーカードを扱うときの注意点

- メモリーの内容をパソコンのハードディスクやMOディスクなどに保存する際は"DCIM"フォルダごと保存してください。その際"DCIM"フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンのハードディスクなどに保存したファイルを再度メモリーに戻して本機で再生する場合は、フォルダ名をパソコン上で"DCIM"に戻してからご使用ください。本機では"DCIM"以外の名前のフォルダは認識されません。"DCIM"フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。元の名前に戻してから使用してください。
- 一度パソコンのハードディスクやMOディスクなどにファイルを保存したあとのメモリーは、中のファイルをすべて削除するか、デジタルカメラでフォーマットしてからご使用になることをおすすめします。なお、メモリーをフォーマットすると、メモリーの内容がすべて消去されますので、フォーマットする際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。

音楽を楽しむ(EX-M1のみ)

パソコンから本機に取り込んだお手持ちのMP3ファイルの音楽データを、オーディオプレイヤーとして再生することができます。
• MP3とはMPEG Audio Layer-3の略で、音声圧縮技術の規格名です。

●再生可能なファイル：
MPEG-1 Audio Layer-3
ビットレート：32〜320kbps、VBR対応
サンプリング周波数：32/44.1/48kHz

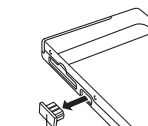
●再生可能なファイル数：999ファイル

オーディオファイルをメモリーに取り込む

1. パソコンを使って、メモリー内の“AUDIO”フォルダにMP3ファイルを取り込みます。
• “AUDIO”フォルダがない場合は、「メモリー内のディレクトリ構造」(75ページ)を参考にフォルダを作成してください。

オーディオプレイヤーを準備する

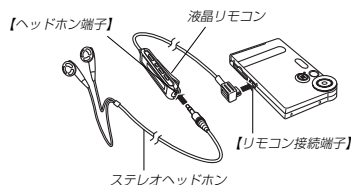
音楽を再生する前に、下記のように準備してください。

1. 電源を切り、カメラ底部の【端子カバー】をはずします。

【端子カバー】

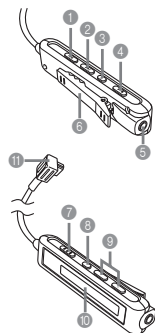
2. カメラの【リモコン接続端子】に付属の液晶リモコンを接続し、液晶リモコンの【ヘッドホン端子】にステレオヘッドホンを接続します。

3. 【モードスイッチ】を“AUDIO”に合わせます。
• AUDIOモードになり、音楽を再生できる状態になります。
• 液晶リモコンの【▶/■】ボタンを押すと電源が入り、音楽が再生されます。

【モードスイッチ】

重要!
• 【モードスイッチ】を“REC”または“PLAY”に合わせているときは、リモコンのボタンはすべて働きません。
• AUDIOモードにすると、カメラの【液晶モニター】が消灯します。また、音楽再生中はカメラ本体では【電源ボタン】以外のボタン操作は無効となります。
• 付属のリモコン以外で本機は操作できません。また、付属のリモコンで他機種を操作できません。
• 本機のスピーカーでMP3ファイルの音楽データを再生することはできません。

オーディオプレイヤーの使いかた

各部の名称

●液晶リモコン本体

① 【|◀◀】(曲戻し／早戻し)
② 【▶▶|】(曲送り／早送り)
③ 【 II 】(一時停止)
④ 【▶/■】(再生／停止)
⑤ 【ヘッドホン端子】(φ3.5mm ステレオミニジャック)
⑥ 【クリップ】
⑦ 【ホールドスイッチ】
⑧ 【プレイモード】
⑨ 【＋】【−】(音量調節)
⑩ 【液晶表示】
⑪ 【カメラ接続端子】

●液晶表示部

① 曲番号表示
現在選ばれている曲の番号を表示します。

② 曲名／アーティスト名／音量レベル表示
• ファイル内にあるID3タグ(ID3V1)の曲名／アーティスト名を表示します。
• 音量を調整中は、音量レベルを示すバーを表示します。
※ 曲名／アーティスト名は、英数字表記のみを表示します。

③ 再生状態表示
再生状態をアイコンで表示します。
再生　　：アイコンが右回りに点滅します。
一時停止：アイコンがすべて点滅します。
停止　　：アイコンがすべて点灯します。

④ モード表示
再生モードを表示します。
ノーマル再生　　：何も表示しません。
全曲リピート再生：⮌を表示します。
1曲リピート再生：⮌1を表示します。

⑤ バッテリー残量表示

基本的な操作のしかた

●**再生する**
【▶/■】ボタンを押します(“ピッ”と音がします)。
• 電源が切れた状態で【▶/■】ボタンを押すと、電源が入り、音楽を再生します。

●**一時停止する**
再生中に【 II 】ボタンを押します(“ピッ”と音がします)。
【▶/■】ボタンを押すと、一時停止は解除されます(“ピッ”と音がします)。
• 一時停止してから約2分間放置すると、自動的に電源が切れます。

●**今聴いている曲を早送りする**
【▶▶|】ボタンを2秒以上押し続けます。

●**今聴いている曲を早戻しする**
【|◀◀】ボタンを2秒以上押し続けます。

●**今聴いている曲の頭出しをする**
【|◀◀】ボタンを1回押します(“ピッ”と音がします)。
さらに前の曲の頭出しをするときは、【|◀◀】ボタンを繰り返し押すか、押し続けます(“ピッ”と音がします)。曲番号がカウントダウンします。

●**次の曲の頭出しをする**
【▶▶|】ボタンを1回押します(“ピッ”と音がします)。
さらに先の曲の頭出しをするときは、【▶▶|】ボタンを繰り返し押すか、押し続けます(“ピッ”と音がします)。曲番号がカウントアップします。

●**停止する**
【▶/■】ボタンを押します(“ピーッ”と音がします)。

●**音量を調節する**
【＋】【−】ボタンを押して、お好みの音量レベルに調節します。

重要! • 音量を調整している最中は、曲の早送り／早戻し、曲の頭出しはできません。

●**電源を切る**
カメラ本体の【電源ボタン】を押します。
• 再生停止状態で約10秒間放置すると、自動的に電源が切れます。

さまざまな再生のしかた

●再生モードを選んで再生する

再生モードには次の3種類があります。

- ノーマル再生
  メモリーした曲を順に再生します。
- 全曲リピート再生
  メモリーした曲を順番に繰り返し再生します。
- 1曲リピート再生
  液晶リモコン表示部に表示中の1曲だけを繰り返し再生します。

オーディオプレイヤーとして音楽を再生したとき、最初はノーマル再生になります。【プレイモード】ボタンを押すごとに、全曲リピート再生 → 1曲リピート再生 → ノーマル再生の順に再生モードが切り替わります。

●リスト表示から曲を選んで再生する

停止／一時停止中にカメラ本体の【●】を押すと、カメラの【液晶モニター】に曲番号／曲名／演奏時間をリスト表示します。このリスト表示から曲を選んでリモコンの【▶/■】ボタンを押すと、選んだ曲を再生します。

参考
- 【▼】【▲】を倒すと、リストがスクロールします。
- リスト表示後、約10秒間操作をしないと、【液晶モニター】のリスト表示は消灯します。

●再生する曲の順番を指定する

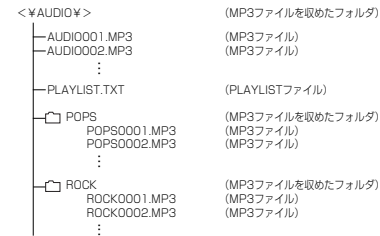
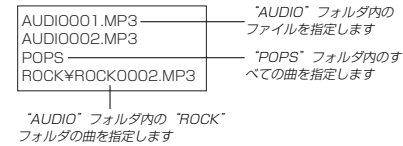
通常、音楽データはメモリーに書き込んだ順番通りに再生されますが、"AUDIO"フォルダ内に"PLAYLIST.TXT"ファイルを作成すると、好きな順番にMP3ファイルの音楽データを再生することができます。
パソコンのテキストエディタで下記のようにファイル名やフォルダ名を書いたテキストファイルを作成し、それに"PLAYLIST.TXT"という名前を付けて、"AUDIO"フォルダ内に入れることにより、再生する曲の順番を指定します。

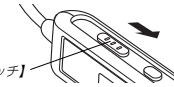
■ フォルダ構造例

```
<¥AUDIO¥>                       (MP3ファイルを収めたフォルダ)
 ├AUDIO0001.MP3                 (MP3ファイル)
 ├AUDIO0002.MP3                 (MP3ファイル)
 │   ⋮
 ├PLAYLIST.TXT                  (PLAYLISTファイル)
 ├POPS                          (MP3ファイルを収めたフォルダ)
 │   POPS0001.MP3               (MP3ファイル)
 │   POPS0002.MP3               (MP3ファイル)
 │   ⋮
 ├ROCK                          (MP3ファイルを収めたフォルダ)
 │   ROCK0001.MP3               (MP3ファイル)
 │   ROCK0002.MP3               (MP3ファイル)
 │   ⋮
```

■ PLAYLIST.TXTの例

```
AUDIO0001.MP3
AUDIO0002.MP3
POPS
ROCK¥ROCK0002.MP3
```

"AUDIO"フォルダ内のファイルを指定します
"POPS"フォルダ内のすべての曲を指定します
"AUDIO"フォルダ内の"ROCK"フォルダの曲を指定します

誤ってボタン操作するのを防ぐには（誤動作防止）

【ホールドスイッチ】を"▶"方向にスライドさせます。液晶リモコンのボタンがすべて働かなくなり、誤動作を防ぐことができます。

- 【ホールドスイッチ】を元に戻すと、誤動作防止は解除されます。

参考 • カメラ本体の【電源ボタン】は働きます。

リモコンに表示されるエラーメッセージについて

液晶リモコンの【液晶表示】に表示されるエラーメッセージには、次のようなものがあります。

	原因	対処
NoData	MP3ファイルデータが入っていない状態で再生しようとした。	内蔵メモリーまたはメモリーカードの"AUDIO"フォルダ内にMP3ファイルデータを取り込んでください。
ERROR	1）内蔵メモリーが壊れている。 2）メモリーカードがフォーマットされていないか壊れている。 3）メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れている。	1）内蔵メモリーをフォーマットしてください（60ページ）。 2）メモリーカードをフォーマットしてください（63ページ）。 3）メモリーカードの接触面を、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。

重要! • エラーになると、ヘッドホンから"ピピッピピッ"と音がします。

オーディオプレイヤーに関するご注意

- 大音量で長時間聴きますと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特に、聴き始めに突然大きな音が鳴らないようにご注意ください。
- 自動車、オートバイなどを運転しながらヘッドホンを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対にお止めください。交通事故の原因となります。また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため周囲の交通や路面状況に十分ご注意ください。

付録

メニュー一覧表

RECモード、PLAYモードの各タブのメニューに表示される項目の一覧表です。
- 下線の引いてある項目は工場出荷時に選択されている項目です。

■ RECモード

●撮影設定タブメニュー

撮影モード	EX-S1：（静止画）／（夜景）／（ムービー）
	EX-M1：（静止画）／（夜景）／（ムービー）／（音声付静止画）／（ボイスレコード）
フラッシュ	オート／（発光禁止）／（強制発光）／（赤目軽減）
セルフタイマー	切／10秒
表示	表示なし／表示あり
サイズ	1600×1200／1280×960／640×480
画質	高精細／標準／エコノミー
デジタルズーム	切／入
EVシフト	-2.0／-1.7／-1.3／-1.0／-0.7／-0.3／0.0／+0.3／+0.7／+1.0／+1.3／+1.7／+2.0
ホワイトバランス	オート／太陽光／日陰／電球／蛍光灯／マニュアル
左右キー設定	撮影モード／EVシフト／フラッシュ／ホワイトバランス

●モードメモリタブメニュー

撮影モード	入／切
フラッシュ	入／切
デジタルズーム	入／切
ホワイトバランス	入／切

●設定タブメニュー

操作音	入／切
起動画面	入／切
日付表示スタイル	年月日／日月年／月日年
日時設定	日付と時刻の設定
LANGUAGE	日本語／English／Français／Deutsch／Español／Italiano
フォーマット	フォーマット／キャンセル

■ PLAYモード

●再生機能タブメニュー

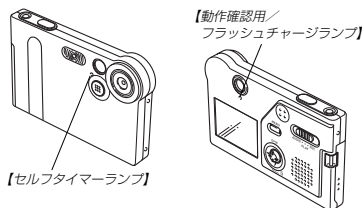
拡大	
プロテクト	オン/オフ／全ファイルオン/オフ／キャンセル
アフレコ	※EX-M1のみ
リサイズ	640×480／320×240／キャンセル
コピー	内蔵→カード／カード→内蔵／キャンセル
お気に入り	表示／登録／消去／キャンセル

●設定タブメニュー

操作音	入／切
起動画面	入／切
日付表示スタイル	年月日／日月年／月日年
日時設定	日付と時刻の設定
LANGUAGE	日本語／English／Français／Deutsch／Español／Italiano
フォーマット	フォーマット／キャンセル

ランプの状態と動作内容

カメラ本体のランプ

カメラ本体には【動作確認用／フラッシュチャージランプ】【セルフタイマーランプ】の2つのランプがあります。これらのランプは、カメラの動作内容によって、点灯したり点滅したりします。

※ランプの点滅間隔は2種類あります。
点滅1では1秒間に1回、点滅2では1秒間に2回点滅します。

■ RECモード

動作確認用／フラッシュチャージランプ		セルフタイマーランプ		内容
色	状態	色	状態	
緑	点灯			電源オン時
オレンジ	点滅1			フラッシュ充電中
緑	点灯			画面オフ時
緑	点滅2			撮影記録中
緑	点滅1	赤	点滅1	セルフタイマーカウントダウン10〜3秒前
緑	点滅2	赤	点滅2	セルフタイマーカウントダウン3〜1秒前
赤	点灯			メモリーエラー
赤	点灯			メモリーフル
赤	点滅1			電池消耗警告
赤	点滅1			画面表示オン不可
緑	点滅2			終了中(電源オフ時)

重要! •【動作確認用／フラッシュチャージランプ】が点滅中にメモリーカードを取り出すことは絶対にお止めください。撮影された画像がメモリーカードに記録されずに消えてしまいます。

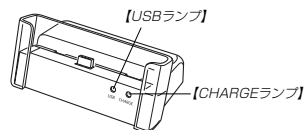
■ PLAYモード

動作確認用／フラッシュチャージランプ		セルフタイマーランプ		内容
色	状態	色	状態	
緑	点灯			電源オン時
緑	点滅2			消去実行中
赤	点灯			メモリーエラー
赤	点滅1			電池消耗警告
緑	点滅2			フォーマット中
緑	点滅2			終了中(電源オフ時)

■ AUDIOモード(EX-M1のみ)

動作確認用／フラッシュチャージランプ		セルフタイマーランプ		内容
色	状態	色	状態	
緑	点灯			電源オン時、液晶リモコン未接続時

USBクレードルのランプ

USBクレードルには【CHARGEランプ】【USBランプ】の2つのランプがあります。これらのランプは、USBクレードルの動作内容によって、点灯したり点滅したりします。

CHARGEランプ		USBランプ		内容
色	状態	色	状態	
赤	点灯			充電中
緑	点灯			充電終了
オレンジ	点灯			充電待機中
赤	点滅			充電エラー
		緑	点灯	USB接続状態
		緑	点滅	PCアクセス中

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

	現　象	考えられる原因	対　処
電源について	電源が入らない。	電池が消耗している。	電池を充電してください(→22ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の寿命です。別売のリチウムイオン充電池(NP-20)をお買い求めください。
	電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた(→25ページ)。 2) 電池が消耗している。	1) 再度電源を入れ直してください。 2) 電池を充電してください(→22ページ)。
撮影について	【シャッター】を押しても撮影できない。	1)【モードスイッチ】が"PLAY"(または"AUDIO")になっている。 2)【フラッシュ】充電中である。 3) "メモリがいっぱいです"と表示されている。	1)【モードスイッチ】を"REC"に合わせてください。 2)【フラッシュ】の充電が終わるまで待ってください。 3) パソコンにファイルを転送後、不要なファイルを消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
	セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している。	電池を充電してください(→22ページ)。
	撮影したのに画像が保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた。	1) バッテリー残量表示が▭になったら、速やかに電池を充電してください(→22ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。

	現　象	考えられる原因	対　処
再生について	再生した画像の色が撮影時に【液晶モニター】で見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている。	直接光がレンズに当たらないようにしてください。
再生について	画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用している。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードは、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
オーディオプレイヤーについて	再生できない、音が聴こえない、またはリモコンが操作できない。	1)【モードスイッチ】が"REC"または"PLAY"になっている。 2) MP3ファイルのデータがメモリーされていない(液晶リモコンの【液晶表示】に"No Data!"と表示される)。 3) ステレオヘッドホンが正しく接続されていない。 4) 音量が小さすぎる。 5) 電池が消耗している。 6) 液晶リモコンの【ホールドスイッチ】が"▶"方向にスライドされている。 7) 再生可能なファイルでない。 8) PLAYLIST.TXTが正しくない。	1)【モードスイッチ】を"AUDIO"に合わせてください。 2) MP3ファイルのデータを"AUDIO"フォルダに取り込んでください。 3) ヘッドホン端子部を確認して、正しく接続してください。 4) 音量を少しずつ大きくしていってください。 5) 電池を充電してください(→22ページ)。 6)【ホールドスイッチ】を元の位置に戻してください。 7) 再生可能なファイル条件(77ページ)かどうかを確認してください。 8) PLAYLIST.TXTとMP3ファイルが一致しているかどうかを確認してください。
オーディオプレイヤーについて	音楽の再生時間が短い。	電池が消耗している。	電池を充電してください(→22ページ)。

※「オーディオプレイヤーについて」は、EX-M1のみが対象となります。

	現　象	考えられる原因	対　処
その他	すべてのボタンやスイッチが働かない。	他の周辺機器との接続中に静電気や衝撃等により、回路内部に障害が発生した。	電池をいったん取り出し、入れ直してから再度操作してみてください。
その他	【液晶モニター】がつかない。	1) 撮影設定タブメニューの"表示"が"表示なし"になっている。 2) USB通信中である。	1) 撮影設定タブメニューの"表示"を"表示あり"に設定してください(→41ページ)。 2) メモリーにパソコンからのアクセスがないことを確認してUSBケーブルを抜いてください。
その他	パソコンにUSB接続してもファイルが取り込めない。	1) カメラがUSBクレードルに確実にセットされていない。 2) USBケーブルが確実に接続されていない。 3) USBドライバがインストールされていない。 4) カメラの電源が入っていない。	1) カメラとUSBクレードルの接合部を確認して、確実にセットしてください。 2) コネクター端子部を確認して、確実に接続してください。 3) USBドライバをインストールしてください(→65ページ)。 4) カメラの電源を入れてください。

画面に表示されるメッセージ

メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切りました。撮影を行いたい場合は、不要なファイルを消去する操作を行う必要があります(49ページ)。
圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可状態のとき表示されます。撮影し直してください。
フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9,999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を行いたい場合は、不要なファイルを消去する操作を行う必要があります(49ページ)。
カードがロックされています	SDメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。
ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。
このファイルは再生できません	画像ファイルや音声ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
お気に入りのファイルがありません	お気に入りフォルダにファイルが登録されていないときに表示されます。
この機能は使用できません	カメラにメモリーカードを入れていない状態で、内蔵メモリーからメモリーカードへファイルをコピーしようとしたときに表示されます(64ページ)。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりましたファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像や音声ファイルが保存されませんでした。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(63ページ)。

カードが異常です	メモリーカードに異常が発生した場合に表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが出るときは、メモリーカードをフォーマットしてください(63ページ)。 重要! • フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前に、パソコン等を利用してメモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
このファイルではこの機能は使用できません	各種機能を実行しようとしたとき、実行できなかった場合に表示されます。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。

主な仕様／別売品

主な仕様

品　名 .... デジタルカメラ
機種名 EX-S1/EX-M1

■カメラ機能

記録画像ファイル
フォーマット............ 静止画：JPEG(Exif Ver.2.2)、DCF (Design rule for Camera File system) 1.0準拠、DPOF対応
動画：AVI (Motion JPEG)
音声：WAV(EX-M1のみ)

記録媒体 内蔵フラッシュメモリー12MB
SDメモリーカード(SD Memory Card)
マルチメディアカード(MultiMediaCard)

記録画素数 .... 静止画：1600×1200pixels
1280×960pixels
640×480pixels
動　画：320×240pixels

画像記録枚数／ファイルサイズ（可変長）

- 静止画

画像サイズ（pixels）	画像	画像ファイルサイズ	内蔵フラッシュメモリー12MB	SDメモリーカード※ 64MB
1600×1200（UXGA）	高精細	約1050KB	約10枚	約53枚
	標　準	約710KB	約15枚	約79枚
	エコノミー	約370KB	約30枚	約154枚
1280×960（SXGA）	高精細	約680KB	約16枚	約82枚
	標　準	約460KB	約24枚	約126枚
	エコノミー	約250KB	約43枚	約220枚
640×480（VGA）	高精細	約190KB	約57枚	約294枚
	標　準	約140KB	約75枚	約386枚
	エコノミー	約90KB	約120枚	約618枚

- 動画（320×240pixels）

記録容量	約150KB/秒
撮影時間	一度に撮影可能な最長時間：30秒 撮影可能なトータル時間： 最長約1分20秒（内蔵メモリーの場合） 最長約6分50秒（SDメモリーカード※64MBの場合）

記録枚数は、撮影できる枚数の目安です。
※ 松下電器産業（株）製の場合です。撮影枚数はメーカーによって異なります。
※ 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。

消去 .... 1ファイル単位、全ファイル一括消去可能（メモリープロテクト機能付き）
有効画素数 124万画素
撮像素子 .... 1/2.7インチ正方画素原色CCD（総画素数：134万画素）
レンズ／焦点距離 ...... F2.5/f=5.6mm（35mmフィルム換算　37mm相当）
ズーム デジタルズーム4倍
焦点調節 .... 固定焦点
撮影可能距離（レンズ表面より）...... 約1m～∞
露出制御 .... 測光方式：撮像素子によるマルチパターン測光
制御方式：プログラムAE
露出補正：-2EV～+2EV（1/3EV単位）
シャッター .... CCD電子シャッター／メカシャッター併用
1/4～1/8000秒
絞り .... F2.5　固定
ホワイトバランス ...... 自動／固定（4モード）／マニュアル
セルフタイマー 作動時間約10秒
内蔵フラッシュ .... 発光モード：自動発光、発光禁止、強制発光、赤目軽減機能切替可能
フラッシュ撮影範囲：約1m～約2m
撮影／録音関連機能 .. 静止画撮影（EX-M1のみ音声付き）、セルフタイマー撮影、夜景撮影、ムービー撮影（EX-M1のみ音声付き）、音声録音（ボイスレコード）（EX-M1のみ）
※ 音声はモノラルです。

音声記録時間（EX-M1のみ）............ 音声付き静止画撮影：1画像につき最長約30秒間
ボイスレコード：約50分（内蔵メモリーの場合）
アフターレコーディング：1画像につき最長約30秒間
モニター 1.6型TFTカラー液晶
84,960（354×240）画素
ファインダー .... 液晶モニター／光学式ファインダー
時計機能 .... クォーツデジタル時計内蔵
日付・時刻：画像データと同時に記録
自動カレンダー：2049年まで
入出力端子 .... クレードル接続端子（EX-M1ではリモコン接続端子兼用）
スピーカー .... φ20mm丸型モノラル（EX-M1のみ）

■オーディオプレイヤー（EX-M1のみ搭載）

データ圧縮／伸長方式 ... MP3方式（MPEG-1 Audio Layer-3）
サンプリング周波数 .. 32/44.1/48kHz
ビットレート .... 32～320kbps、VBR対応
再生モード .... ノーマル再生、全曲リピート再生、1曲リピート再生
ヘッドホン実用最大出力 .... 9mW+9mW（16Ω）

MP3ファイルには、ビットレート128kbps、サンプリング周波数44.1kHzのファイルを推奨します。

■電源部、その他

電源 .... リチウムイオン充電池（NP-20）×1個
電池寿命：

連続撮影時間（撮影枚数）	約1時間20分（約480枚）
連続再生時間	約1時間50分
ボイスレコード録音時間※	約1時間20分
オーディオ再生時間※	約5時間30分

電池寿命は、標準温度（25℃）／連続撮影／フラッシュ非点灯で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。また、ボイスレコード録音時間※は連続で録音したときの時間、オーディオ再生時間※は連続で再生（ヘッドホン出力）したときの時間です。
※ ボイスレコード録音時間／オーディオ再生時間は、EX-M1の場合のみです。

消費電力 .... DC3.7V　約3.0W
サイズ .... EX-S1 ：幅88mm×高さ55mm×奥行き11.3mm（突起部除く）
EX-M1 ：幅88mm×高さ55mm×奥行き12.4mm（突起部除く）
質量 .... EX-S1 ：約85g（電池、付属品除く）
EX-M1 ：約87g（電池、付属品除く）
付属品 .... リチウムイオン充電池（NP-20）、USBクレードル、USBクレードル用ACアダプター、ストラップ、専用USBケーブル、ダミーカード、端子カバー、液晶リモコン（EX-M1のみ同梱）、ステレオヘッドホン（EX-M1のみ同梱）、CD-ROM、取扱説明書（保証書付き）、リチウムイオン充電池取扱説明書

■USBクレードル

入出力端子 .... カメラ接続端子、USB接続端子、外部電源端子（DC IN 5.3V）
消費電力 .... DC5.3V　約3.4W
サイズ .... 幅95mm×奥行55.5mm×高さ39.5mm（突起部含まず）
質量 約56g

■専用ACアダプター

入力電源 .... AC100－240V　50/60Hz　0.12A
出力電源 .... DC5.3V　1.0A
プラグ形状 .... Aタイプ（平２ピン）
サイズ .... 幅47mm×奥行き72mm×高さ20mm（突起部、ケーブル除く）
質量 約110g

■液晶リモコン（EX-M1のみ同梱）

入出力端子 .... カメラ接続端子、ヘッドホン端子（φ3.5mmステレオミニジャック）
コード長 約0.8m
サイズ .... 幅74.5mm×高さ16mm×奥行き11mm（突起部、クリップ、ケーブル除く）
質　量 約28g

電源について

- 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池NP-20をお使いください。他の電池は使用できません。
- 本機には時計専用の電池は入っておりません。電池やUSBクレードルで電源が供給されていないと、日時がリセットされますので、その場合は再度設定してください（27ページ）。

液晶パネルについて

- 液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高精度な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

別売品

- リチウムイオン充電池　NP-20
- USBクレードル/ACアダプター※　CA-20
- EXILIMオリジナル本皮ケース　ESC-1
- EXILIMオリジナルジャケット　ESC-2

※ USBクレードル、ACアダプター、専用USBケーブルのセットです。自宅や職場用など数台必要な場合に、お買い求めください。

別売品は、お買い求めの販売店もしくはカシオ・オンラインショッピングサイト（e-カシオ）にご用命ください。

e-カシオ：http://www.e-casio.co.jp/

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオホームページでもご覧になることができます。

http://www.casio.co.jp/

索引

QVNetのお知らせ

QVNetは入会無料！カシオ製デジタルカメラをお買い上げのお客様を対象としたインターネット上の会員制サービスです。

QVNetのアドレスはhttp://QVNet.casio.co.jp/

主なサービス内容 ※1

- 入会は簡単！会員登録とユーザー登録が同時に済みます。
- アンケートはがきを投函せず、ネット上での回答もＯＫ。
- ユーザー登録のしかた
  ユーザー登録はQVNet(http://QVNet.casio.co.jp/)の【ユーザー登録(会員登録)】から【ユーザー登録】の画面に入り、機種リストからご利用のデジタルカメラを選択して登録を行ってください。

その他のＱＶ関連ウェブ情報

※1 QVNetのサービス内容は会員の意見・要望や公開アンケートの結果により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。
※2 QV PLAZAのアドレスはhttp://www.casio.co.jp/QV/です。